

基本目標 2

生涯を通じたスポーツ機会の充実

1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進

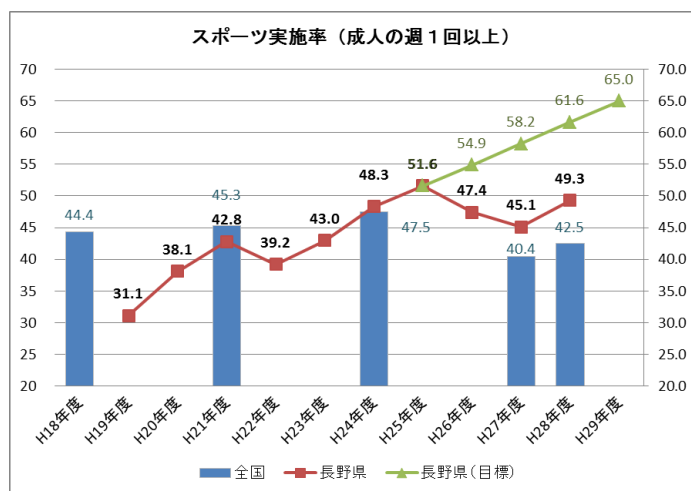
10年後の目指す姿

- 多くの県民が余暇時間を有効に使い、適性や目的等に応じて、家族や仲間とスポーツ活動を楽しんだり、スポーツイベントを観戦するなど、充実したスポーツライフを送っている。
- プロスポーツチームの試合や各種スポーツ大会の観戦・応援などスポーツをみて楽しむ人が増加している。
- スポーツボランティアとして地域のスポーツ活動を盛り上げるなど、スポーツを「ささえる」人が増加している。
- 障がい者の社会参加の推進と社会の障がい理解が促進され、障がいの有無に関わらず、スポーツを通じた交流が拡大されている。

現状と課題

○ 運動スポーツの習慣化

- ・成人の週1回以上のスポーツ実施率は、50%を下回り、その理由は「仕事（家事・育児含む）が忙しいから」が最も多くなっています。
- ・近年、余暇はスマートフォンなどのネット利用に多くの時間が充てられており、運動・スポーツに参加する習慣が定着しているとは言い難い状況です。
- ・障がい者のスポーツ実施率は、障がいのない人（成年）の半分以下という状況です。（H27 スポーツ庁調査：障がい者の週1回以上 19.2%）



(出典)：県政モニターアンケート

○ 長寿社会に向けた運動による健康づくり

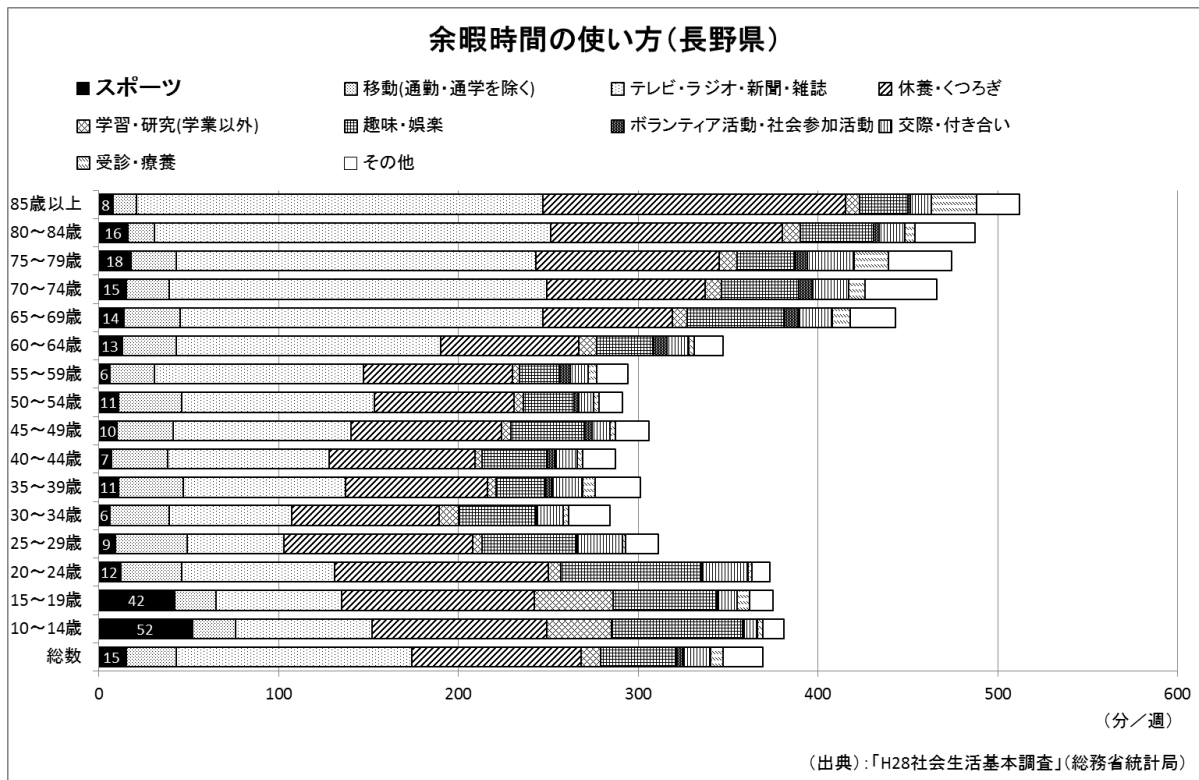
- ・高齢者が手軽にできる運動の提供などができる指導者が不足しています。
- ・適切な指導者の指導の下で、自分の体力や生活スタイルに配慮しながら継続できる運動・スポーツをすることが重要です。
- ・高齢者が身近な場所で運動できるような支援ボランティアが不足しています。
- ・生活習慣病になる一因として、運動不足があげられています。

○ 「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」

- ・プロスポーツチームの誕生により、競技レベルの高い試合を観戦する機会が増えています。
- ・実際に競技場等に出かけ、スポーツを観戦する人の割合は、1割程度に留まっています。
- ・各種スポーツイベント、スポーツ大会、スポーツ教室などにボランティアとして参加している人の割合は、1割に届かない状況です。(22 ページグラフ参照)

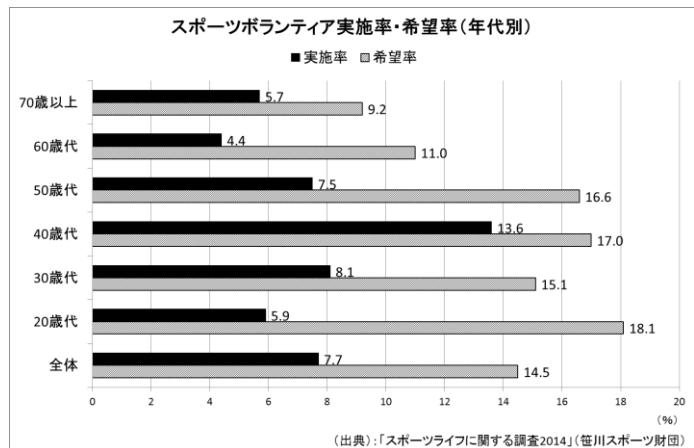
余暇活動としてのスポーツを！

学生時代は、運動部活動などでスポーツに慣れ親しんでいた人も、社会人になってから時間的余裕がなくなり、スポーツから離れてしまう傾向が多く見られます。



若者からのスポーツボランティア定着を！

スポーツボランティアの実施希望率が最も高い20代を中心にボランティア活動の機会を積極的に提供することにより、スポーツボランティアの活性化が期待されます。



施策の展開

- ライフスタイルに応じた「するスポーツ」の普及
 - ・ 2027年の国体・全国障害者スポーツ大会の開催機運を活用して、スポーツに親しむ人口の拡大を図り、県民の健康づくりを推進します。
 - ・ 県レクリエーション協会等と連携し、軽運動やニュースポーツなど、高齢者や障がい者も気軽に行える運動・スポーツを普及し、余暇時間におけるスポーツの習慣化を促進します。
 - ・ スポーツに関わる余暇時間が少ない世代が、できるだけスポーツに興味や関心を持てるような働きかけを行います。
 - ・ 働き盛り世代の健康増進のため、企業等と連携し、スポーツ機会の拡充を図ります。
 - ・ 運動時間が不足しがちな育児中の女性が心身の健康を保つための運動など、女性のニーズや意欲に合ったスポーツ機会の提供を促進します。
- 青壮年期のスポーツ活動の促進
 - ・ 生活習慣病予防のため、運動不足になりがちな働き盛り世代が、日常的な運動に取り組めるよう、効果的な運動手法の紹介や、健診、保健指導の際の意識啓発を推進します。
- 高齢期のスポーツ活動の促進
 - ・ 体を動かす楽しみや介護予防の観点から、高齢期におけるスポーツ活動が積極的に取り組まれるよう支援します。また、高齢者の身近な場所で運動を支援する運動支援ボランティアの育成を支援します。
 - ・ 体力的な理由等により運動・スポーツをすることが困難な高齢者に対し、スポーツ観戦やスポーツボランティアへの参加等のスポーツとの関わり方を普及し、スポーツが生活に潤いを与える社会の実現を目指します。

- 「みるスポーツ」の普及
 - ・2027年の国体・全国障害者スポーツ大会の開催機運を活用して、県民のスポーツを「みる」習慣化を促進します。
 - ・県内で開催される世界大会や全国大会の情報を収集し、トップレベルの競技を身近で観戦できる機会の発信に努めます。
 - ・県内に本拠地を置くプロスポーツチームのファン・サポーターを増やし、県内で開催される試合の観戦者の増加を目指します。
 - ・本県出身のプロスポーツ選手やトップアスリートの活躍を広く県民に広報し、県民のスポーツへの関心度を高めます。

- 「ささえるスポーツ」の普及
 - ・2027年の国体・全国障害者スポーツ大会の開催機運を活用して、スポーツを「ささえる」人口の拡大を図ります。
 - ・地域におけるスポーツイベントへのスポーツボランティアの参加を促進し、地域のスポーツクラブ等の活動の充実を図ります。
 - ・スポーツボランティアの実施希望率が高い若者世代が、ボランティア活動に参加しやすい環境の整備を進めます。
 - ・障がい者スポーツの支援にスポーツボランティアとして参画する者が増加するよう、関係機関と連携して取り組みます。

- 長野県の特徴を活かしたスポーツの推進
 - ・県民が親しみをもって取り組んでいるスポーツ競技を推進し、多くの県民が生涯を通じてスポーツを身近に感じることができる環境づくりを推進します。

- 障がい者のスポーツ参加機会の拡大と理解促進
 - ・障がい者が、適性や目的に応じたスポーツ活動ができるよう、様々なスポーツの体験教室を開催します。
 - ・多くの障がい者が参加できるよう、障がい者スポーツ大会を充実します。
 - ・スポーツ体験会やセミナーの開催を通じて、障がい者及び介護者等に対し、スポーツの意義を啓発します。
 - ・ホームページやメールマガジン、県・市町村広報誌などを通じ、障がい者スポーツに関する情報の発信を行い、障がい者スポーツに対する理解を促進します。
 - ・特別支援学校の生徒が、卒業後に継続してスポーツを行うことができるよう、特別支援学校と総合型地域スポーツクラブが連携して取り組みます。

2 地域のスポーツ環境の整備

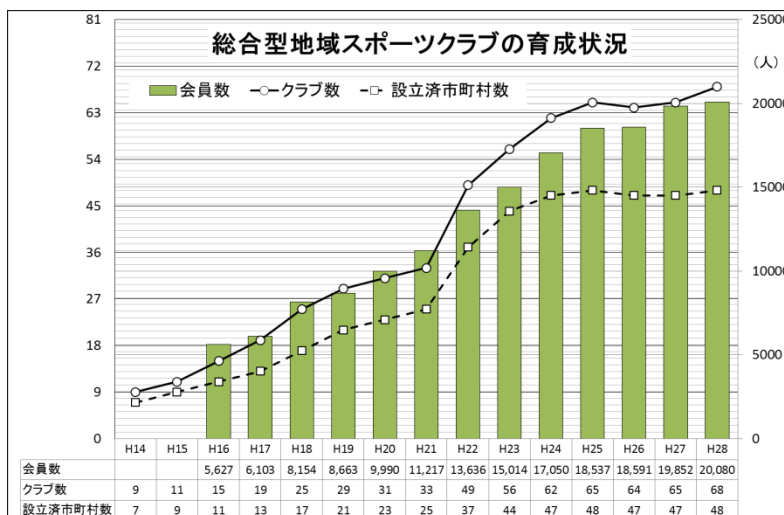
10年後の目指す姿

- スポーツ推進委員がコーディネーターとなり、それぞれの地域で、個々の目的や適性等に応じたスポーツ活動が活発に行われている。
- 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、社会体育団体やその他のスポーツクラブ等が、それぞれの地域で充実した活動を展開している。
- 障がいの種類、程度、適性や目的等に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。

現状と課題

○ 身近な場所でスポーツに親しめる環境の整備

- ・身近で気軽にスポーツができる機会、場所、指導者、支援者等の環境を整備する必要があります。
- ・スポーツ推進委員は、地域でのスポーツ活動のコーディネート機能の発揮が求められています。
- ・総合型地域スポーツクラブでは、自主財源や会員の確保、指導者の育成や確保などが課題となっています。



(出典)：長野県教育委員会スポーツ課調

- ・地域における指導者相互の連携が不足しています。
- ・スポーツ施設や公園施設などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められています。

○ 障がい者スポーツ

- ・障がい者スポーツに対する認知度や理解度がまだまだ広がっておらず、障がい者スポーツの実施環境整備の遅れや指導者不足が生じています。
- ・競技の指導技術と障がい理解を併せ持つ指導者が不足しています。
- ・障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会の開催が求められています。

施策の展開

○ スポーツ推進委員の活動支援

- ・スポーツ推進委員が、学校、地域、スポーツ団体及び民間スポーツクラブ等の橋渡し役となり、地域スポーツのコーディネーターとして活動できるよう、市町村と連携して活動を支援します。

- 総合型地域スポーツクラブの育成と安定運営に向けての支援
 - ・地域のスポーツ活動を支える中核組織である総合型地域スポーツクラブの自立的な運営を支援するため、関係団体と連携し中間支援組織*の整備を目指します。
 - ・県体育センターにおいてアシスタントマネージャー養成講習会を開催し、総合型地域スポーツクラブの運営に関わる中心的人材の育成を支援します。

- 地域スポーツ拠点のマルチ化
 - ・公民館、文化施設、商店街のコミュニティスペース等において、従来から行っている生涯学習・文化・地域活動に加えて、新たにスポーツ活動を行う取組を支援することにより、スポーツ無関心層等が気軽に参加できる環境整備を促進します。

- 地域スポーツ指導者の養成
 - ・県体育センター等の研修により、地域のスポーツ活動を支える指導者の育成を図ります。
 - ・スポーツで活躍した選手やスポーツ指導法を学んだ大学卒業生が、総合型地域スポーツクラブ等においてスポーツ指導に従事できるような環境づくりを研究していきます。
 - ・地域のスポーツ指導者相互の連携を図ります。
 - ・障がい者スポーツ指導員の養成講習会を開催します。

- スポーツにおける安全の確保
 - ・県体育センター、長野県体育協会、長野県障がい者スポーツ協会等が実施する各種研修の機会を通じて、最新のスポーツ医・科学的知見に基づくスポーツ事故・外傷・障がい特性等に関する専門的知識の普及・啓発に努め、未然防止の取組を推進します。
 - ・市町村やスポーツ団体に対し、AEDの設置の確認や不測の事態が生じた際に速やかにAEDを使用できる体制整備を図るよう啓発します。

- スポーツイベントの充実
 - ・「信州チャレンジスポーツDAY」、「長野県障がい者スポーツ大会」、「信州ねんりんピック」等、広く県民が参加しスポーツに親しめるイベントの充実を図ります。

- スポーツ施設の充実・維持管理
 - ・国体の会場地市町村と連携しながら、大会後も地域スポーツ拠点となる施設の整備を計画的に進めます。
 - ・県営スポーツ施設が、ニーズの変化に対応し、身近で安全に利用しやすい施設となるよう、利用者の意見に十分配慮しながら施設の充実と適切な維持管理に努めます。
 - ・体操等が気軽にできる場として都市公園等オープンスペースの有効活用を推進し、施設以外にもスポーツができる場を創出します。
 - ・誰もが気軽にサイクリングを楽しめるよう、諏訪湖周にサイクリングロードを整備します。

- 県立武道館を核とした武道振興
 - ・ 県立武道館を核として、武道団体や各地の武道施設と連携し、武道の普及を図ります。
 - ・ 全国大会を継続的に誘致し、トップレベルの選手を間近で「みる」機会を増やします。

- 地域における障がい者スポーツ環境の整備
 - ・ スポーツ推進委員が、地域内で広く人々とスポーツを通して関わり、障がい者スポーツの普及や発展に努められるように支援します。
 - ・ 総合型地域スポーツクラブが、障がい者スポーツを導入するためのガイドブックを普及し、総合型地域スポーツクラブへの障がい者の参加を促進します。
 - ・ 障がい者が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、県・市町村の運動施設での障がい者スポーツ用具の整備を推進します。
 - ・ 障がいがあることを理由に施設利用が制限されないことがないよう、施設管理者や職員の障がい者スポーツに対する理解を促進します。
 - ・ 障がい者が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、特別支援学校の体育館などの体育施設や競技用具を地域に開放します。
 - ・ 障がい者スポーツ地域コーディネーター*が、障がい者スポーツを支える行政・関係団体・指導者等の協力を得ながらネットワークを構築します。

- スポーツを通じた共生の社会づくり
 - ・ 2027年の全国障害者スポーツ大会の開催機運を活用して、障がい者の社会参加の促進と社会の障がい理解を促進するとともに、障がいの有無に関わらず、スポーツを通じた交流を拡大するなど、スポーツの力による共生社会づくりを推進します。

達成目標

<基本目標2> 生涯を通じたスポーツ機会の充実

◆重要目標達成指標 (KGI)

指標名	現 状	目標 (2022 年度)	備 考
運動・スポーツ実施率 (成人の週1回以上)	49.3% (H28年度)	65%	国の「第2期スポーツ基本計画」の目標値と同一 【県政モニターアンケート調査】
直接スポーツ観戦率	13.4% (H28年度)	15%	10年後に20%を目指す 【県政モニターアンケート調査】
スポーツボランティア参加率	8.1% (H28年度)	10%	10年後に15%を目指す 【県政モニターアンケート調査】
地域スポーツクラブ(※) 加入率	10.1% (H28年度)	15%	10年後に20%を目指す 【(加入者数) スポーツ課調】 【(県人口) 毎月人口異動調査】
障がいのある人が参加するプログラムを行っている総合型地域スポーツクラブの割合	13.2% (H28年度)	50%	10年後に80%以上を目指す 【障がい者支援課調】

※「地域スポーツクラブ」…総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、各種のスポーツクラブ（学校の運動部活動を除く）

◇重要業績評価指標（KPI）

アシスタントマネジャー養成講習会（体育センター）受講者数

地域スポーツの新たなプラットフォーム形成支援事業実施市町村数

生涯スポーツ研修講座（体育センター）受講者数

スポーツ事故等に関する講習会（体育センター）受講者数

信州チャレンジスポーツDAY参加者数